

文化庁月報

No.474

2008年 3月号

CONTENTS

文化の交差点 青木 保・文化庁長官対談 第8回 ゲスト 山崎正和 さん●LCA大学院大学長、劇作家

高級文化と大衆文化の接点を4

長官コラム 青木保のカフェ・アオキ8

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート72	
北海道立近代美術館	22
芸術文化の風 36	
アートをマネジメントする(阿部俊夫)	23
著作権Q&A『著作権なるほど質問箱』から 36	
大学と著作権	24
言葉を見つめて 12	
方言談話資料を利用して	25
伝建地区を見守る人々 伝建歳時記 48	
200年ぶりの渡り初め(福岡県朝倉市)	26
天然記念物の保護管理の現状 12	
天然記念物見島ウシ産地の現状と課題(山口県萩市)	28
広げよう「文化力」の輪! 24	
青木保文化庁長官トークサロン	30
こどもの文化体験 12	
映画をとおして生きることを考える(石川小松市)	31
日本の伝統美と技を守る人々 重要無形文化財保持者編 21	
今井信子(雅号 秋山信子)(衣裳人形)	32
国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 文化財鑑賞の手引き 60	
印刷文化を支えた板木	33
祭り歳時記 伝承を支える人々 24	
鹿島の祭頭祭(茨城県)	34
文化交流使の活動報告 40	
自覚を新たに(名嘉睦穂・画家)	35
文化でまちづくり 明日への文化振興ビジョン 12	
おおさか文化プラン(大阪府文化振興計画)	36
近代建築のある風景 活用の最前線 6	
三池港築港100年と船渠地区保存の取組	38
文化審議会文化政策部会審議経過報告	39
文化庁主催	
「伝統文化子ども教室」フェスティバルinなら」開催	40
「新「ことば」シリーズ21」の刊行	41
東京国立近代美術館 フィルムセンター	
生誕100年 映画監督 マキノ雅広	42
国立西洋美術館	
ウルビーノのヴィーナス 古代からルネサンス、美の女神の系譜	42
京都国立近代美術館	
生誕100年記念 秋野不矩展	43
東京国立博物館	
平城遷都1300年記念 特別展 国宝 薬師寺展	43
奈良国立博物館	
特別展 天馬 シルクロードを翔ける夢の馬	44

連載

文化庁ニュース

イベント案内

文化財として指定・登録されている戦後の建造物	文化財部参事官(建造物担当)付調査部門	21
施策紹介		
広島の戦後建造物	江崎一博	20
庶民の町大阪のシンボル	植木久	19
国際文化会館の保存再生	高垣佑	18
事例紹介		
戦後の土木構造物(橋梁)概観	篠原修	16
消えゆく和風住宅の文化	小泉和子	14
ドコモモと戦後建築	鈴木博之	12
寄稿		
戦後建造物の文化財保護の現状と展望	刈谷勇雅	10
文化庁提言		

特集 文化財としての戦後建造物

新国立劇場スポットライト45

4月の国立劇場46

芸術文化振興基金ニュース47

題字デザイン 桑山弥三郎

今月の表紙 (上)国立西洋美術館本館正面
(下)国際文化会館【撮影：新建築社写真部】

戦後建造物の文化財保護の現状と展望

文化財部参事官(建造物担当) 荻谷勇雅

平成一八年七月五日、広島平和記念資料館と世界平和記念聖堂の二件の建造物が、戦後の建造物として初めて重要文化財に指定されました。

広島平和記念資料館は、昭和二六年二月に起工し、昭和三〇年八月に開館したもので、世界的な建築家・丹下健三の出发点となった建築作品であり、国際的に高い評価を受けた最初の戦後建築です。同じ広島市内に所在する世界平和記念聖堂は、建築家・村野藤吾の設計により昭和二九年八月六日に献堂されたカトリック教会聖堂で、世界平和の実現を祈念する建築物であるとともに、戦後村野藤吾の原点となる建築的作品でもあります。

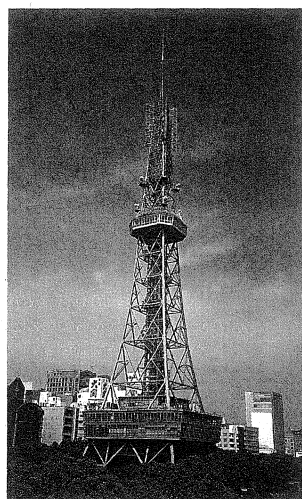
ともに、被爆都市広島における復興の先駆的存在であり、戦後日本を象徴する代表的建築といえるでしょう。

重要文化財建造物の指定が昭和の建築物に及んだのは平成九年のことです。昭和九年竣工の明治生命保険相互会社本社本館(東京都千代田区)がその第一号でした。次いで、平成一〇年二月、昭和四年竣工の三井本館(東京都中央区)が重要文化財に指定されました。土木構造物では、昭和九年建設の富岩運河水閘施設(富山県富山市)が最初の指定物件で、末広橋梁(三重県四日市市)、白水溜池堰堤水利施設(大分県竹田市・萩町)、旧筑後川橋梁(福岡県大川市・佐賀県佐賀市)、

丸沼堰堤(群馬県片品村)、萬代橋(新潟県新潟市)、豊稔池堰堤(香川県観音寺市)、清洲橋(東京都中央区・江東区)、勝間橋(東京都中央区)が続いています。登録有形文化財建造物では、最初に登録された戦後建築は、平成一一年一〇月に登録された広瀬川美術館(群馬県前橋市)で、現在までに登録された戦後の建造物は一三二件を数えます。この中には、昭和二九年築の名古屋テレビ塔(愛知県名古屋市中区)などの戦後ならではの建造物が含まれます。モダニズム系の戦後建築では、坂倉準三・前川國男・吉村順三の共同設計になる国際文化会館本館(昭和三〇年/東京都港区)、村野藤吾設計の関

西大学簡文館(昭和三〇年/大阪府吹田市)、兵庫県建築部官署課の設計で光安義光が担当した日本真珠会館(昭和二七年/兵庫県神戸市)、吉阪隆正設計の浦家住宅主屋(昭和三一年/兵庫県西宮市)、丹下健三設計になる倉吉市役所本庁舎(昭和三一年/鳥取県倉吉市)があります。戦後モダニズム建築の登録の増加傾向には、戦後建築の重要文化財指定の後押しが影響していると思われます。

戦後建築の重要文化財指定に際しては、日本建築学会等におけるモダニズム建築再評価の動きが深く関係しています。具体的には、ドコモモ(DOCOMOMO)近代建築に関する建物、敷地、環境の資料化と保存のための国際組織・ジャパン



名古屋テレビ塔【撮影：小野吉彦】

による平成一五年五月の「文化遺産としてのモダニズム建築一〇〇選(ドコモモ一〇〇選)」の発表があります。ドコモモ一〇〇選には、既に重要文化財に指定されている旧山邑家住宅(大正一三年/兵庫県芦屋市/昭和四九年五月指定)と自国学園明日館(大正一〇年/東京都豊島区/平成九年五月指定)というフランク・ロイド・ライトの二作品が含まれています。平成一七年一二月に宇都市渡辺翁記念会館(昭和一二年/山口県宇部市)を指定し、平成一八年七月には先述の戦後建築二件の指定と同時に旧日向家熱海別邸地下室(昭和一一年/静岡県熱海市)と旧京都中央電話局西陣分局舎(大正一〇年/京都府京都市)二件が重要文化財に指定されています。次いで、三件目の戦後建築として、コルビュジエ設計の国立西洋美術館本館(昭和三四年/東京都台東区)が、平成一九年一二月に重要文化財に指定されました。

参事官(建造物担当)としては、建築については前記のドコモモ一〇〇選をも参考にしながら検討を行い、また土木構造物についても調査を深め、戦後の建造物の重要文化財指定を進めようと考えています。しかし、これらは現役の施設である場合が多いこともあって所有者や管理者から指定についての合意を得るのは容易ではありません。また、登録文化財も含めて、継続して活用しながら文化財として維持管理、保存を図るには、文化財保護法だけでなくそれぞれの固有の関係法令や技術基準等との適合が必要ですし、また鉄骨や鉄筋コンクリート構造が多いこともあってこれに合った修理技術についても検討が必要です。このため文化庁では現在、戦後建造物を含む近代化遺産の修理等に係る指針策定の調査研究会を設置し、調査や学識者等の意見聴取を行っているところです。

今後、文化財としての指定や登録が必要な戦後建造物が急増してくることは確実です。国民、所有者・管理者等の理解を得て、その文化財指定や登録を促進するとともに、適切な維持管理、修理について万全を図りたいと考えています。

ドコモモと戦後建築

東京大学教授 鈴木博之

認識があるからである。

二〇〇六年に広島平和記念資料館と世界平和記念聖堂が、我が国の戦後建築物としては初めて、国の重要文化財に指定されたとはいえ、戦後の建築はまだ十分な評価が下されてはおらず、そのため保存・継承の手段も十分には講じられていない。そうした将来を見据えた作業として、ドコモモ・ジャパンの作業は続けられている。現在我が国では、重要文化財の指定も、登録有形文化財の選定も、建設後五〇年を経た時点でその対象となるとされている。これは五〇年の年月を経ることによって、歴史的評価が定まると考えられているからである。しかしながら、五〇年に達するまでの期間に取り壊される建築は数多い。

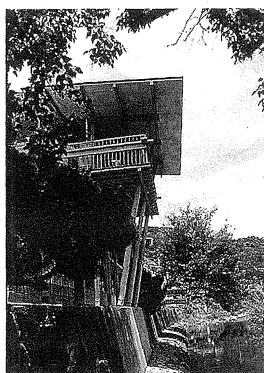
ドコモモ・ジャパンは二〇〇〇年に、ドコモモ二〇選として、我が国におけるモダニズム建築を二〇作品選び、それらを展示する展覧会を開催した。この試みは後に、ドコモモ一〇選をリストアップしてその展覧会を組織するまでに展開した。そこでリストアップされた一〇〇の建物は一九二〇年代から高度経済成長を迎えた六〇年代に及ぶ。

ドコモモと呼ばれる組織は「DOCOMOMO: Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement」のことであり、「モダン・ムーブメント」にかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織」と訳される。一九八八年に設立された国際学術組織であり、その会員の専門分野は、建築史研究者だけではなく、建築家、建築エンジニア、都市計画家、行政関係者など幅広い。二年に一回世界各地で総会が開かれてきた。日本支部であるドコモモ・ジャパンは二〇〇〇年のブラジリア総会でドコモモの正式メンバーとして承認された。現在世界中の四五の国や地域がこのドコモモに加盟している。

現代建築をどのように歴史的文化遗产として継承させるかが大切である。これまで問題となった戦後建築の事例をここでは振り返っておくことにしよう。

旧日本相互銀行本店は前川國男の設計で一九五二年（昭和二七）に建てられ、日本建築学会賞を受賞した建築である。一・二階には柱のない銀行営業室をつくり、三・七階はアルミサッシやアルミパネルによる横連窓をもつ事務室で、八・九階はオーデトリウムとなっている。全溶接鉄骨構造の採用など当時の最先端の技術を採用したビルであり、現在は三井住友銀行の所有である。この建物は各方面からの要望にもかかわらず、全面建替えが発表された。

一九五五年（昭和三〇）に前川國男、



日土小学校：川に張り出した図書室

坂倉準三、吉村順三の共同設計により完成した国際文化会館は、この敷地に存在していた岩崎小弥太郎の庭との調和を図って建築されている。この仕事は日本建築学会賞業績賞を受賞した。二〇〇六年（平成一八）には「登録有形文化財」に登録された。〇五年（平成一七）には耐震補強を含む大規模改修を実施し、モダニズム建築としての外観や、庭と建物の伝統的なたずまいは変えることなく保存された。

日土小学校校舎は、愛媛県八幡浜市に勤める松村正恒の設計により、一九五六年（昭和三一）と五八年（同三三）の二期に分けて建てられた木造校舎である。ドコモモではこの建築の保存要望書を提出し、建築学会四国支部や建築家協会愛媛支部と協力して、その保存活用計画を推進している。市でも重要文化財指定を目指して、質の高い改修計画を行おうとしている。

国立西洋美術館は一九五九年（昭和三四）に、ル・コルビュジエの基本設計によって竣工した建築である。前川國男・坂倉準三・吉阪隆正が実施設計・監理に

協力し完成させている。九八年（平成一〇）には旧建設省による「公共建築百選」に選定された。また同じ年に大規模な免震工事を行っている。これは本格的な免震工事としては日本初のものであった。この後、首相官邸建設に伴ってそれまでの官邸を公邸として活用する際にも免震化工事が採用された。国立西洋美術館のほうは、現在フランス政府が提出している一連の「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の一つとして世界文化遺産登録の過程にある。

このほか、一九五一年（昭和二六）に坂倉準三の設計によって鎌倉に建てられた神奈川県立近代美術館はその帰趨がいまだに不明確である。一方、六六年（昭和四一）に菊竹清訓の設計により建てられた都城市民会館は、解体が予定されていたが、南九州大学が二〇年間貸与を市に要望し、市が受け入れたことで保存が決まった。

こうした戦後建築の保存・継承に関して、ドコモモ・ジャパンは要望書の提出、委員会への参加、シンポジウムの開催等を通じてかかわっている。

消えゆく和風住宅の文化

昭和くらしの博物館館長 小泉和子

このところ、日本人から和風住宅の常識というか、マナーが消滅していつてゐるのをしきりに感じる。

例えば和風住宅の場合、履き物を脱いで、その足を直接床に上げるのが常識である。だが最近これが変わつてきて、靴を脱いで、いったん土間に足をおろしてから、床に上がるのである。まるで外国人のようである。子どもなどはもうほとんどがこの方式である。このため玄関の上部が汚れてしまう。雨の日などはことにひどい。汚れたことにすら気がつかないらしい。中には「靴を脱ぐのですか？」などと聞く人までいてびっくりする。

我が家をくらし博物館に

五二に建てた我が家を「昭和のくらし博物館」として公開している。前年の二五年に始まった住宅金融公庫の融資を受けて建てた、木造二階建、延坪一八坪のいわゆる公庫住宅である。無人になつてしまつたため、戦後の庶民住宅史および庶民生活史の資料として残しておくことを考えて、平成十一年（一九九九）、公開に踏み切つたものである。平成十四年には国の登録文化財として登録された。

接間として使つていた。デスクと書棚に簡単な応接セットが置いてある。一面に二階へ上がる梯子段がついていて、段の下が便所になつてゐる。

二階は手前が子ども部屋、奥が下宿人部屋である。ともに四畳半で部屋と部屋の境は壁になつてゐる。公庫からの借金を返すため、収入源として下宿人を置くことを考えて、部屋を独立させていたのである。二階は日当たり、風通しがよくて非常に気持ちがいい。

書斎の隣は四畳半の茶の間である。ここにはちゃぶ台を出して、昭和の一日の食事を並べてある。朝は麦飯・あさりの味噌汁・昆布の佃煮・白菜の漬物、昼は麦飯・鯛の丸干し・煮豆・沢庵、夜は白

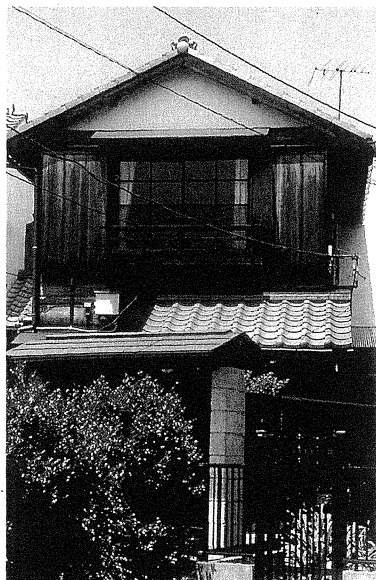
飯・豆腐と葱の汁・秋刀魚の塩焼・野菜の煮物・ほうれん草の胡麻和え・茄子の糠漬けである。

右に三畳ほどの台所がある。窓際に流しとガス台、食器戸棚が並び、床は上げ板になつてゐる。上げ板の下はぬかみそ桶や炭、酒や醤油瓶類の入れ場所である。もとは裏口の外に下屋がさしかけてあつて、竈と井戸があつたが、現在は室内化して学芸員室としてゐる。

茶の間の左は縁側、奥が座敷である。縁側はもとぬれ縁だったが、現在は半間幅の廊下になつてゐる。座敷ももとは六畳だったが、出窓に改造したりして、現在は変形の八畳になつてゐる。

ここには母が嫁入りに持つてきた桐だんすといふ壇が置かれ、裁ち板や針箱など並べて、母が和裁をしてゐた状態に復元してゐる。

この家に往事は一家六人と下宿人



昭和の香りを漂わせる、その名も「昭和のくらし博物館」（旧小泉家住宅）

が暮らしてゐた。風呂はないから銭湯へ行く。洗濯機が我が家に入つたのは昭和三〇年、それまでは井戸端でたらいと洗濯板で「ごしごし」やつてゐた。夏は張物、秋は布団作りが母の年中行事、服は月賦のミシンで自分たちで縫つてゐた。

夏は涼風に吹かれながらの夕食、冬はこたつでおしゃべり、客が来れば泊まつていく、暮れには隣近所いっしょになつて餅つきをする、そんな暮らしだった。

日本の住文化を残したい

博物館として公開してから丸八年が過ぎた。最初のころは「こんな家、どこにもあるじゃないか」などと文句を言うお

爺さんもいたが、今はそれどころか床の間も知らない人がゐる。畳替えや障子張りも見ないことない、はたきをはけるなどはもちろん、布団の上げ下ろしなどしたこともないという人が多数派になつてゐる。

確かにマンションや今時の住宅には床の間も畳もないものが多い。障子も襖もなく、ベッドは万年床だから、和風住宅の使い方もマナーもわからなくなつたのはやむを得ないだろう。といつてこの流れを止めるすべはないが、むかし人間としてはうたた感無量である。

確かに戦前までの日本の住宅には欠点が多かつた。それが戦後の家族制度の変化や工業化社会の進展などといった大きな社会変革によつて合理的に改善されたことは事実である。ただその際、ひたすら洋風化に目標をおいて、日本の住宅の特長であつた風土と生活に根ざした住文化まで投げ捨ててしまつたことは間違ひだつたと思う。もつと日本の住文化を大事にすべきだつたのではないか。

そう思つて茅屋ながら和風住宅とその中でのくらしを伝えたいと、ささやかな努力を続けているところである。

戦後の土木建造物（橋梁）概観

政策研究大学院大学教授 篠原 修

戦前の公共事業は基本的には直営だった。工事は民間の建設会社に発注されたが、設計監理を含め、土木建造物の設計は役所のインハウスエンジニアによって行われていた。設計者（主任技師）も明示され、日本橋（明治四四年）は東京市の樺島正義の、永代橋（大正一五年）は復興局の田中豊の橋と認識されていた。地方には人材不足ということもあって、設計事務所を開いていた民間の増田淳や阿部美樹志設計も多い。情況が一変するのは高度成長時代以降である。

昭和三〇年代に始まった経済の驚異的成長を支えるために、港湾や道路、やや遅れて新幹線、空港などの社会資本への投資が急務の課題となった。増大する業務をこなすために設計、計画、調査の仕

事が外注されることとなり、効率よく、早く実施するために設計は標準化されることになる。質より量が、地域の個性より効率が重視されたのである。インハウスエンジニアが丁寧な、知恵を絞って設計する橋は西海橋（写真1）を最後に姿を消すことになったのである。

昭和三〇年代から昭和の末に至る期間は、標準設計と長大橋の時代だった。全国至る所に地域性を無視した同じような橋が架けられる一方で、土木のエリートエンジニアたちは本州四国連絡橋に代表される橋の長大化に情熱を注いでいた。その到達点が世界最大のスパンを誇る明石海峡大橋である。しかしこれらの吊橋、斜張橋も、革新的な技術やデザインの観点からは世界の賞賛を得たとは言えない。

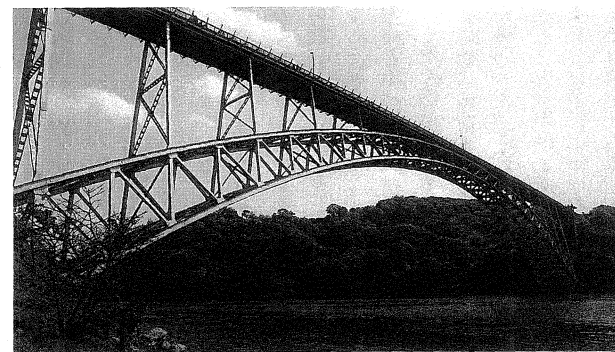


写真1 長崎県佐世保市・針尾島と西海市の間にある伊ノ浦瀬戸（針尾瀬戸）に架かる西海橋（昭和30年竣工）

改良型の技術、前例踏襲型のデザインと見られているのである。一部の例外は東名以来の日本道路公団インハウスの手になる高速道路の橋である。

昭和の末からバブル景気が始まると、それまでの無味乾燥な設計の鬱憤をはら

すかのような橋が続出する。景観に名を借りた装飾過多の奇をてらった橋である（写真2）。構造の合理性や全体の形の美しさに眼は向かず、橋本体とは関係のない高欄の飾り、彫刻の設置などがデザインと誤解されていたのである。

バブルの崩壊とそれに続くコスト縮減の世論に押されて、このような橋は姿を消すことになる。現在は昭和末ごろから地道に景観とデザインに取り組んできたエンジニアたちの成果が実りつつある時期である（例えば写真3）。

戦前のインハウスエンジニア



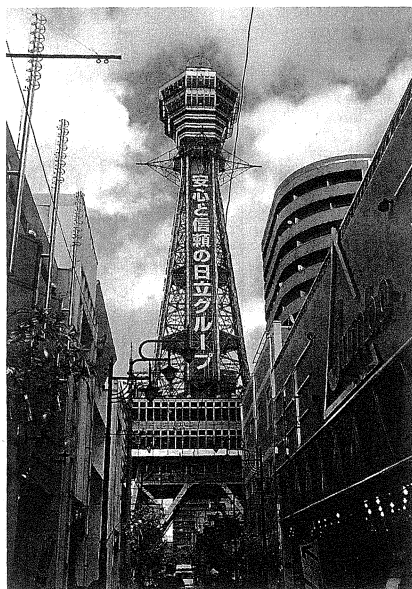
写真2 バブル時代の橋



写真3 九頭竜川に架かる福井県勝山市の勝山橋（平成12年竣工）

が情熱を傾けた橋は、日本橋や永代、清洲の両橋、新潟の萬代橋が国指定の重要文化財になったように、文化財としての価値が高いものが多い。これに対し、戦後の標準設計による橋は、残念ながら、後世にそう評価されることはまれであろう。所詮、知恵と設計にかけた時間、情熱が作品の価値を決めるのである。これは橋に限られない河川やダム等の土木建造物一般に通じる真理であり、否、すべての建造物、建築、美的工芸品にも通ずる真理ではないかと思う。昭和末から地道に続けられている橋のデザインが将来文化財的評価を受けるか否か、それは今のところわからない。

事例紹介



独特の景観をもつ2代目通天閣

大阪市浪速区に「新世界」と呼ぶ歓楽街がある。大阪の庶民の町として親しまれ、映画やテレビドラマ、小説の舞台としてもたびたび登場している。

この新世界は明治三十六年に開催された第五回万国勸業博覧会の会場跡につくられたもので、北半分は飲食店を中心とした専門店街と

された。パリをモデルにした放射状街路が特徴であり、これは現在もそのまま残っている。中ほどにはルナパークというアメリカンスタイルの都市型遊園地がつくられた。

この新世界のほぼ中央に位置するのが通天閣である。天に通じる高い建物という意味で、命名者は明治初期の儒学者藤沢南岳（ふじさわなんがく）である。天に通じる高い建物という意味で、命名者は明治初期の儒学者藤沢南岳（ふじさわなんがく）である。

明治四五年に完成した初代は下部は凱旋門、上部はエッフェル塔を模した奇抜な姿で人気を集めたが、昭和一八年に火災により被害を受け、同年第二次大戦下の鉄材供出のため解体された。

跡地は戦後しばらくはそのままであったが、昭和三十一年に、総工費三億四〇〇〇万円で、

初代が建っていたすぐ北側、つまり現在の場所に二代目が再建された。鉄骨鉄筋コンクリート製で、高さは一〇三m、上層の展望台までが八四mである。地上一四mのところの下層の展望室が置かれ、みやげ物屋、事務室等がある。塔の東側には円形のエレベーター塔がつくられ、ここが入口となり、二階の展望室につながっている。設計は東京タワーなどを手がけた内藤多仲（うちだちゅう）、施工は株式会社奥村組である。

下層の展望室は外側にせり出した逆台形の箱型で、上層の展望室は上方に広がる形態であり、直線で構成された外観のデザインは重厚であるが、なにかユーモラスな親しみやすい雰囲気をもっている。

近年のレトロブームの中、新世界は大阪の庶民の町を代表する人気スポットとなり、多くの観光客を集めている。その中心が通天閣であり、大阪城天守閣と並ぶ大阪を代表する都市景観といえる。

大阪市文化財保護担当研究主幹

植木 久

庶民の町大阪のシンボル 通天閣

事例紹介

国際文化会館の保存再生

財団法人国際文化会館理事長

高垣 佑

日本と諸外国の人々の交流の広場として広く内外に親しまれてきた国際文化会館は、昭和三〇年（一九五五）の開館から半世紀を経て老朽化し、建替えが必要となりました。私どもではこの際に耐震面の強化、利便性の向上、IT化等の機能更新など、利用者にとって安全で使いやすい新施設を作ろうと建替えを計画しましたが、これに対し建築学会を中心に反対の声があがりました。歴史的に由緒ある敷地に建つ会館は我が国近代建築の傑作であり、また日本庭園も名匠の手になる佳景として知られ、高い文化財的価値を有するからです。

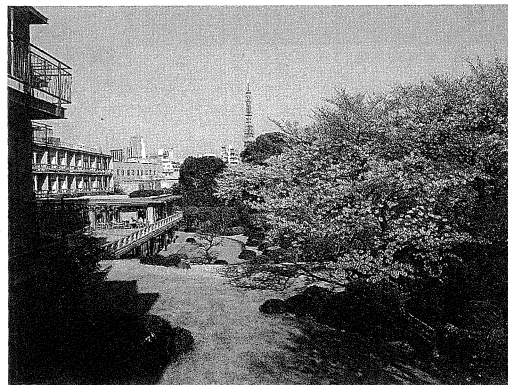
財団法人国際文化会館が民間の国際交流の「ハウス」としての社会的使命をもつこと、この公益事業を安定的に遂行していくため財政的に裏付けのある運営が求められること、そして緑豊かな庭園と建物のたたずまいの環境を大切にすることなど新会館計画の方針を説明しましたところ、日本建築学会は特別に委

員会を編成して多角的、集中的な検討を行い、本館建物を保存再生する代替案を平成一六年（二〇〇四）九月に提示されました。この案は会館の意向も踏まえた具体性をもつ提案でしたので、会館も専門家チームを作り、学会側と協議を行った結果、学会の意見を基本的に受け入れて、保存再生案を採択することとなりました。

新会館は平成一八年（二〇〇六）七月にオープンし、以来国際交流活動を本格的に再開し、宿泊・料飲施設を兼備する施設ににぎわいが戻り、順調に運営されております。グラントオープン時には天皇・皇后両陛下がご来館され、昨春は天覧歌舞伎一二〇周年記念「勸進帳」公演を行うなど、以前をしのぐ活況を呈しています。

豊かな文化を作っていくためには、良い伝統を継承することが、新しい試みと同じように大切です。本館建物は国の登録有形文化財となり、庭園は港区の名勝に指定され、また

保存再生事業は平成一九年（二〇〇七）日本建築学会賞（業績部門）を受賞しましたが、こうした国際文化会館の選択が今後の良き先例となることを願っております。



国際文化会館からは東京タワーも望める【撮影：新建築社写真部】

施策紹介

表1 重要文化財に指定されている戦後の建造物

所在地	名称	建設年代	設計	指定年月日
東京	国立西洋美術館本館	昭和34年	ル・コルビュジエ	平成19年12月21日
広島	広島平和記念資料館	昭和30年	丹下健三	平成18年7月5日
広島	世界平和記念聖堂	昭和29年	村野藤吾	平成18年7月5日

戦後につくられた建造物の中で、現在、重要文化財に指定されているものは三件（表1）、登録有形文化財に登録されているものは一三二件に上ります。重要文化財の三件は、いずれも著名な建築家が設計した、デザインに優れた作品であるばかりでなく、戦後日本の復興を象徴的に物語る、歴史的にも意義深い建築物となっています。登録有形文化財に関しては、表2からわかるように、その内容は実に多種多様で、住宅・サービス業に関連する建築物をはじめとして、官公庁舎、学校、文化福祉施設、国土保全施設など、国民の生活に深くかわる建造物が多く含まれています。具体的に物件を見ていくと、屋敷の土蔵、木造の料亭や神社建築、表面を石張とした砂防堰堤などの、戦前からの技法・意匠による建造物が多くを占める一方で、名古屋テレビ塔や富山市郷土博物館（富山城）などのように都市の復興を象徴する大規模建造物、倉吉市役所本庁舎のようなモダニズムの庁舎建築、さらには戦後全国各地に建設された遊園地施設や鉄骨の火の見櫓など、いかにも戦後らしい建造物も含まれています。明治以降の近代化により多様化した我が国の建設文化が、戦後の新たな社会情勢の中でさらに発展していく様子を、こうした物件からうかがいしることができます。現在、一三二件にとどまる昭和三〇年代の建造物の登録件数が、今後順調に増えていけば、この傾向はますます顕著になっていくことでしょう。

表2 登録有形文化財に登録されている戦後の建造物

種別	件数	物件名
第1次産業	3	沼田家住宅旧りんご倉庫（北海道、昭和28年）、泉家住宅鯉節製造場（高知県、昭和22年ごろ）ほか
第2次産業	12	旧北炭夕張炭鉱高松スリ捨線拱橋（北海道、昭和26年）、後藤織物工場（群馬県、昭和23年）、赤膚山元窯中型窯（奈良県、昭和26年ごろ）ほか
第3次産業	33	今半別館玄関棟（東京都、昭和25年ごろ）、名古屋テレビ塔（愛知県、昭和29年）、料亭河文主屋（愛知県、昭和25年）ほか
官公庁舎	7	能代市役所第一庁舎（秋田県、昭和24年）、旧相川拘置支所居房棟（新潟県、昭和29年）、倉吉市役所本庁舎（鳥取県、昭和31年）ほか
学校	4	旧男鹿市立加茂青砂小学校屋内体操場（秋田県、昭和26年）、旧山本中学校村原校舎教室棟（長野県、昭和24年）、三重大学レーモンドホール（三重県、昭和26年）ほか
生活関連	2	旧岩渕火の見櫓（静岡県、昭和26年）、なごみの塔（沖縄県、昭和28年）
文化福祉	7	富山市郷土博物館（富山城）（富山県、昭和29年）、山本能楽堂及び能舞台（大阪府、昭和25年）、阿須那公民館阿須那分館（島根県、昭和27年）ほか
住宅	50	佐藤政衛家住宅土蔵（青森県、昭和20年）、松永記念館老櫓荘（旧松永安左エ門邸）（神奈川県、昭和21年）、泉家住宅主屋（高知県、昭和22年ごろ）ほか
宗教	6	真清田神社本殿及び渡殿（愛知県、昭和29年）、宇夫階神社本殿（旧多賀宮御正殿）（香川県、昭和28年）、大川阿蘇神社農村舞台（熊本県、昭和28年ごろ）ほか
治山治水	6	方等上流砂防堰堤（栃木県、昭和27年）、日影第一号砂防堰堤（岐阜県、昭和27年）、杣小屋拱堰堤（鳥取県、昭和26年）ほか
その他	2	前橋市中央児童公園（るなばあく）もくば館（群馬県、昭和29年）、オリエンタルビル屋上観覧車（愛知県、昭和31年）ほか

文化財として指定・登録されている戦後の建造物

文化財部参事官（建造物担当）付調査部門

事例紹介

広島平和記念資料館・世界平和記念聖堂

広島市民局文化スポーツ部主幹 江崎一博

広島平和記念資料館と世界平和記念聖堂は、国際平和と文化都市を都市像とする広島市街地のほぼ中心部に位置し、一昨年の平成一八年七月、戦後建築として初めて重要文化財の指

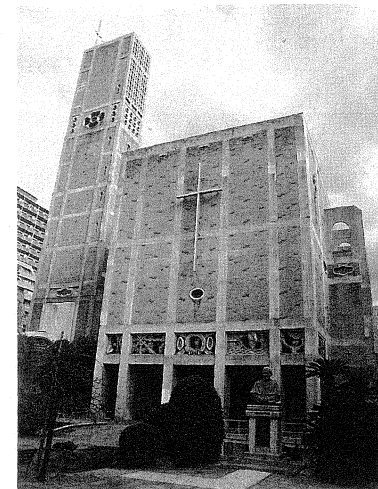


広島平和記念資料館

定を受けました。これらの建物が位置する地域は、戦前まで存在した建物がほとんど破壊、焼失した爆心地から半径1km以内に当たり、それぞれ建設の経緯は異にするが、被爆後約一〇年の時を経て竣工したものです。

広島平和記念資料館は、広島平和記念都市建設法に基づき、平和記念公園内に建設された被爆資料などを展示する鉄筋コンクリート造の資料館で、一階の吹き放しロティやルーバーの意匠などに建物の特徴がよく現れています。

また世界平和記念聖堂は、被爆で焼失した「幟町天主公会堂」を継承する施設としてその跡地に再建されたもので、鉄筋コンクリート造の単調な箱型に、軀体の柱梁フレーム、セメントモルタル煉瓦、花弁型の窓および正面玄関上の彫刻などの組合せで変化をもたせた



世界平和記念聖堂

外観が建物の見所の一つとなっています。この二棟の建物は、戦後、廃墟の中から復興し、変化してきた街の中でもその姿を変えことなく常に大きな存在感を示してきています。また、その歩みは多くの方々が体験的にも知るところであり、文化財が私たちに与えて身近なものであることをより強く感じさせてくれる建物といえます。

◆長官対談◆
 「文化の交差点」 青木保文化庁長官対談
 野村萬斎
 狂言師、世田谷パブリックシアター芸術監督
 「長官コラム 青木保のカフェ・アオキ」

◆特集◆

平成二〇年度の文化行政の
 重点的な取組

【施策紹介】
 平成二〇年度の文化庁重点施策

◆文化庁ニュース◆
 「情報ひろば」 オープン
 「高松塚古墳シンポジウム」報告
 「文化庁月報」平成一九年度総目次

ほか

編集後記

今回は、戦後につくられた建造物の文化財保護の現況に焦点を当てて特集を組みました。ひと昔前ならば、文化財は、現在の生活から切り離された、遠い過去の作品や建造物としてイメージされることが多かったのですが、近年では、戦後という、多くの日本人の自分史と重なる時代の遺構を、文化財として保護する気運が高まっています。その背景としては、戦後日本を既に一つの歴史としてとらえる認識が広まり、さらには戦後の高度成長期における日本の姿を描く映画や小説を

◆連載◆
 「いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート」
 名古屋市博物館
 「芸術文化の風」
 「旅」展の開催
 「著作権Q&A」著作権なるほど質問箱から」
 図書館と著作権
 「言葉の使い分け」
 言葉の使い分け

「伝建地区を見守る人々 伝建地時記」
 重伝建の城下町篠山の付まい河原町（兵庫県篠山市）
 「世界遺産講座」
 世界遺産条約はどのようなものによって生まれたか
 「広げよう「文化力」の輪！」
 第五回関西四元気文化圏賞贈呈式を開催
 「子どもの文化体験」
 伝統文化ことも教室事業
 「日本の伝統美と技を守る人々」
 三川泉・熊シテ方
 「国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法」
 仏像の図録
 「祭り歳時記 伝承を伝える人々」
 鹿島日吉神社のお浜下り
 「文化交流使の活動報告」
 田原恵一・北九州市立六生中学校校長
 「新進芸術家在外研修体験談」
 奥谷博・洋画家

通じて、この時代を懐かしむ風潮が広がってきていることなどが挙げられます。文化財保護の観点からいえば、戦後建造物の保護を進めることは、建設後五〇年を経過した建造物を対象とする登録文化財制度が浸透した現在においてはいわば自然な流れであり、産業遺産 文化的景観と並んで二〇世紀建造物の保護が欧州において積極的に進められていることから判断しても、今後我が国において本格的な保護の取組が期待される分野の一つといえるでしょう。

(参)

文化庁月報 3月号 (通巻474)

平成20年3月25日印刷・発行

編集——文化庁

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行——株式会社 きょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03 (3571) 2126

販売 03 (5349) 6666

URL : http://www.gyousei.co.jp

印刷所——ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 本体514円 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株) きょうせい営業部広告課

電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

2008 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文に再生紙・大豆油インキを使用しております。

美術館・博物館チケットプレゼント

今月号の展覧会等のチケットプレゼントは、

A 国立西洋美術館
 「ワルビーノのヴィーナス」
 2組 (ペア)

B 京都国立近代美術館
 「秋野不矩展」2組 (ペア)

C 東京国立博物館
 「国宝 薬師寺展」2組 (ペア)

D 奈良国立博物館 「天馬」
 2組 (ペア)

です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、3月25日(火)までにご投函ください(当日消印有効)。

*チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●

http://www.bunka.go.jp